様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：３２６３０
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｈ００７３０

研究課題名（和文）近代ヨーロッパにおけるカトリシズムの変容と持続をめぐる社会史的考察

研究課題名（英文）A Socio-Historical Analysis of Catholicism in Modern Europe: Continuity and Change

研究代表者
中野　智世（Nakano, Tomoyo）

成城大学・文芸学部・教授

研究者番号：９０４５４４７０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,500,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、近代ヨーロッパ社会における宗教性のあり方を、カトリシズムを例として歴史的に検討することにあった。その際、特に着目したのは、宗教的心性や世界観が醸成される私的な生活領域である。分析の結果、明らかになった点は以下のとおりである。
(1)カトリシズムの宗教性は、様々な儀礼や実践を通して人々の生活習慣に深く根づいており、世俗化の進む近代以降においても、それは容易には揺るがなかった。(2)カトリックという宗派に依拠した組織、集団、その教義や規範は、近代社会を生きる人々を物心両面で支える一方、個人としての彼らの生き方を縛るくびきともなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、従来の西洋近現代史研究では看過されがちであった宗教に着目し、カトリシズムを例として、宗教を視野に入れた新たな近代ヨーロッパ史像の構築を試みたものである。その意義は以下の2点にまとめられる。（１）ヨーロッパ社会の形成過程における宗教性を、様々な地域・局面をとりあげて個別・実証的に可視化したことにより、「世俗化のトップランナー」としてのヨーロッパ像を相対化し、より精緻にとらえ直すための視座を提示した。（２）宗教研究における歴史的考察の有効性を例示的に示した。

研究成果の概要（英文）：　This research project examined the religious practices of Catholics in modern Europe by paying close attention to the everyday private lives defined by their religious mindset and their worldview. Our research group came to the following two conclusions.
First, the religiosity of Catholics was deeply rooted in their everyday practices, such as rites and rituals. Despite ongoing secularization, this religiosity was unchanged. Second, though Catholic organizations, groups, tenets, and norms supported people both materially and spiritually, they also fettered individuals in their private lives and pursuits.

研究分野：ドイツ近現代史

キーワード：西洋史　カトリシズム　宗教　社会史　近代ヨーロッパ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

（１）　日本における西洋近現代史研究において、宗教はながらく研究上のブラックボックスであった。その背景には、世俗化史観、宗教の私事化論といった宗教をとらえる伝統的なパラダイムの存在がある。そこでは、宗教の影響力は近代社会の到来とともに徐々に減退し、宗教は国家・社会などの公的境域から私的領域へ、最終的には個人の内面へと限定されるようになるとされてきた。とりわけ近代以降のヨーロッパは、政教分離や宗派平等をいち早く制度化した「世俗化のトップランナー」として位置づけられてきたため、ヨーロッパの近代化過程の歴史分析においては、宗教はもはや真正面から検討すべき課題とはみなされてこなかった。

（２）　しかし、20 世紀後半以降、宗教復興ともいえる現象や宗教・宗派にかかわる諸問題が世界的に頻発し、当のヨーロッパ世界においても宗教・宗派対立が深刻な社会問題として顕在化するなかで、上記のパラダイムは大きく揺らぐこととなった。現在では、かつての単線的な世俗化史観や私事化論は相対化され、より精緻な議論が展開されるようになり、さらに個人の内面の信仰を核とする宗教理解にも疑念が呈されるようになって久しい。こうした状況をふまえ、報告者は西洋近現代史研究においてもあらためて宗教の役割を捉え直す必要があると考え、2010 年代はじめから、キリスト教、特にヨーロッパの「伝統宗教」であるカトリシズムを検討対象とする研究グループを組織して共同研究を進めてきた。本研究課題は、こうした継続的な研究活動のなかで着想に至ったものである。

２．研究の目的

（１）　本研究では、近代ヨーロッパ社会の形成過程における宗教の役割をカトリシズムという一宗派に着目して分析することとした。伝統文化や生活習慣に根ざした土着性を有し、儀式や儀礼、宗教実践を重視するカトリシズムは、ともすると近代社会においては見えにくい宗教性を「見える」形として把握することが比較的容易である。また、バチカンを頂点に統一された制度・教義を持つ一方で、ローカルな多様性をも有していることから、地域や時代を越えた比較にも適している。こうした利点を生かして、カトリシズムという窓から、近代化の進む社会のなかでの宗教性のありようを検証することが本研究のねらいであった。

（２）　上記の問題を検討するにあたって本研究が特に着目した局面は、人々の私的な生活領域である。上述のように、報告者はすでに数年間にわたって継続的な共同研究を進めてきており、2016 年には、政治、労働、教育、福祉といった公共領域におけるカトリシズムについての研究成果を論集の形で上梓した（中野智世・前田更子・渡邊千秋・尾崎修治編『近代ヨーロッパとキリスト教――カトリシズムの社会史』勁草書房）。そこでは、政党や労働組織、教育や福祉制度といった「近代的」諸制度において、カトリシズムの倫理や諸規範、組織やネットワークが少なからぬ役割を果たしていたことが明らかになり、一般に「伝統＝反近代」の側に位置づけられがちなカトリシズムも近代社会の形成に関わっていることが具体的な諸相において実証的に示された。この成果を踏まえ、本研究では、以上のような公共領域に現れる宗教性を下支えする場として個々人の私的領域に着目し、生活世界における宗教のありようを検証することとした。具体的には、近代という激変の時代を生きる人々の「生」に、カトリックという宗派に依拠した組織（網）、集団、その教義や規範がどのように関わり、どのように人々の生き方を規定していたかを描き出すことを目的とした。

３．研究の方法

（１）　カトリシズムの宗教儀礼や実践は、出生から婚姻、看取りや埋葬にいたるまで、つまり「ゆりかごから墓場まで」、信徒の生涯に密接に関わっていた。日常的な日々の営みや人生の節目におけるライフコースの選択など、個人の生活や「生き方」に宗教がどのような影響を及ぼしていたのかを明らかにするため、本研究では、家族・婚姻、ジェンダー、セクシュアリティ、身体・生命・ケアといった分析の柱となる大テーマを設定し、それぞれの局面において実証的な分析を進めることとした。

（２）　具体的には、ヨーロッパのカトリック地域・国をフィールドとする 11 名の研究者（フランス 3 名、ドイツ 3 名、イタリア 1 名、スペイン 1 名、アイルランド 1 名、ポーラン

ド１名、ハンガリー1 名）が、上記の柱となる大テーマに即してそれぞれ個別テーマを定め、それぞれのアプローチで、私的な生活世界とカトリシズムとの関わりを検討することとした。

（３）　研究を進めるにあたって、各研究者はフィールドとなる地域・国において史料調査・収集を進める一方、分析視角の拡大や方法論の精緻化をはかるため、研究グループ外のゲストスピーカーを内外から招き、クローズドのワークショップや公開講演会など様々な形での意見交換や議論の場を持つこととした。

４．研究成果

（１）　本研究を進めるにあたり、内外の研究者を招いて開催された研究会等は下記の通りである。

① ワークショップ「近世ヨーロッパにおけるプロテスタント」（2018.11.4、明治大学）
・猪刈由紀氏「近世ドイツ敬虔派と社会事業（ディアコニー）」
・山本信太郎氏「イングランド宗教改革とウェールズ」
② 学術講演会（2019.3.4、日仏会館、および 3.6、龍谷大学）
フィリップ・ブトリ氏「墓地の発明から火葬の勝利へ――フランスにおける死の変容」
③ ワークショップ「フランスにおける婚姻の変化」（2019.3.9、東京大学）
・フィリップ・ブトリ氏「結婚、離婚、『みんなのための結婚』――18～21 世紀のフランスにおける婚姻形態の変化」
④ 学術講演会（2019.7.13、東京大学）
ベンヤミン・ツィーマン氏「抗議・計画・参加――1968 年以降のドイツ連邦共和国におけるカトリック教徒」
⑤ ワークショップ「国境を越えるカトリシズム：スペイン史の視野から」（2019.12.8、青山学院大学）
・ホセ・ラモン・ロドリゲス・ラーゴ氏「スペイン・カトリシズムの国家を越えるネットワーク（1898-1933）」
・ナタリア・ヌニェス・バルゲーリョ氏「国際聖大会における国家を越えるカトリシズム」

（２）　本研究の直接的な成果は、個々の参加研究者による学会発表、論文、翻訳、資料紹介および著書など、様々な形で部分的に公表されている（詳細は、本報告書後半の一覧を参照）。また、本研究全体の集大成となる成果は、論文集として刊行すべく、現在準備を進めている（勁草書房、2022 年度内に刊行予定）。詳細は同書に譲ることとし、以下では、本研究の成果を 4 点にまとめて簡潔に示す。

①　カトリシズムの教義や諸規範は、信徒一人ひとりの「生」の様式、個人のライフコースを規定するものであり、その影響力は近代化が進む中でも容易には揺るがなかった。例えば、教義が認めていない離婚は信徒にとって個人的にも社会的にも重大問題であり、日ごろ教会から距離をおく信徒にとっても死の床にあって終油の秘跡に与ることは重要であった。特に生老病死の場において、カトリシズムの宗教性は近代においても一定の役割を果たしていた。

②　カトリシズムにおける様々な宗教儀式、人生の節目に繰り返される儀礼の数々は、生活習慣や文化として人々の身体感覚や日々の日常生活に深く根をおろしていた。また、そうした場で生まれる共同性、ネットワークは、私的領域にとどまらず、公的領域での諸活動、個人としての自己実現にもより広い可能性を提供するものであった。日常の生活世界に根差した宗教的つながりは、近代社会においても人々を支え、包摂する機能を保持していたといえる。

③　上述のように、カトリシズムの教義や規範、組織や集団は、激動の近代社会を生き抜こうとする人々にとって欠くことのできないつながりを提供し、物心両面で支えるものであったが、その一方で、信徒の生き方を限定し、彼らの生を縛る足かせともなった。近代社会の提示する諸原理――個人の自由や自己決定など――は、しばしばカトリシズムの教義や世界観とは相いれず、信徒一人ひとりの生活世界においても少なからぬ葛藤やコンフリクトを生み出す契機となった。

④　近代社会におけるカトリシズムの影響力が揺らぐのは、地域・局面によって偏差はあるものの、ヨーロッパ社会ではおおむね 20 世紀半ば以降である。20 世紀後半以降のカトリシズムについての検討は、今後の課題となる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計19件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　10件）

１．著者名 渡邊千秋	４．巻 107
２．論文標題 「候補会員」という制度からみるアクシオン・カトリカ男子青年部(1923-1943)	５．発行年 2021年
３．雑誌名 青山国際政経論集	６．最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Shunsuke Katsuta	４．巻 12
２．論文標題 “Aggregate meetings” and politics in early nineteenth-century Dublin	５．発行年 2021年
３．雑誌名 LEAVES	６．最初と最後の頁 87-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中野智世	４．巻 1007
２．論文標題 慈善と科学のあいだで――近代ドイツの障害者保護	５．発行年 2021年
３．雑誌名 歴史学研究	６．最初と最後の頁 96-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 前田更子	４．巻 104-1
２．論文標題 信仰と職業ー両大戦間期フランスにおける女性教師「ダビデ」の世界	５．発行年 2021年
３．雑誌名 史林	６．最初と最後の頁 155-187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡邊昭子	4．巻 58
2．論文標題 改宗者は教会に何を求めたのか――18世紀後半のエゲル司教座の「改宗」文書から	5．発行年 2021年
3．雑誌名 歴史研究	6．最初と最後の頁 67-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 村上信一郎	4．巻 23
2．論文標題 教皇フランシスコ試論―第二ヴァティカン公会議の生成論的受容	5．発行年 2020年
3．雑誌名 アリーナ	6．最初と最後の頁 386-403
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡邊千秋	4．巻 105
2．論文標題 フランコ独裁初期における『聾唖者アクシオン・カトリカ』創設について	5．発行年 2020年
3．雑誌名 青山国際政経論集	6．最初と最後の頁 99-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 フィリップ・ブトリ（長井伸仁・前田更子訳）	4．巻 35
2．論文標題 結婚、離婚、『みんなのための結婚』――18－21世紀のフランスにおける婚姻形態の変化	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日仏歴史学会会報	6．最初と最後の頁 35-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32200/bsfjsh.35.0_35	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 前田更子	４．巻 87
２．論文標題 １９世紀末のフランスにおける女子師範学校の世俗化と宗教	５．発行年 2020年
３．雑誌名 明治大学人文科学研究所紀要	６．最初と最後の頁 128‐155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 渡邊千秋	４．巻 102
２．論文標題 フランコ独裁体制初期におけるアクシオン・カトリカ青年部―マドリード、コルプス・クリスティ教区の機関誌『セントロ』からみる組織再生の試み	５．発行年 2019年
３．雑誌名 青山国際政経論集	６．最初と最後の頁 25-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 勝田俊輔	４．巻 17
２．論文標題 19世紀ロンドンのアイルランド人移民――複眼的・長期的視点から	５．発行年 2019年
３．雑誌名 ヴィクトリア朝文化研究	６．最初と最後の頁 53-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 芦部彰	４．巻 12
２．論文標題 戦後西ドイツにおけるエルンスト・マイの住宅建設	５．発行年 2019年
３．雑誌名 ゲシヒテ	６．最初と最後の頁 71-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 勝田俊輔	4．巻 34
2．論文標題 18世紀西洋世界のコスモポリタニズム――コメントにかえて	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本18世紀学会年報	6．最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中野智世	4．巻 38
2．論文標題 ナチ体制下ドイツにおけるカトリック・カリタス――共存と抵抗のあいだで	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ヨーロッパ研究	6．最初と最後の頁 1(148) -32(117)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加藤久子	4．巻 12
2．論文標題 政治に分断されるカトリック教会――ポーランドにおけるポピュリスト政党と宗教保守層の動向	5．発行年 2019年
3．雑誌名 上智大学ヨーロッパ研究叢書	6．最初と最後の頁 114-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 寺戸淳子	4．巻 8(1)
2．論文標題 市民社会における〈ラルシュ〉共同体運動の意義 ：「権利」と「祝祭」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 宗教と社会貢献	6．最初と最後の頁 55-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/68257	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 渡邊千秋	4．巻 100
2．論文標題 カタルーニャ自治政府の宣伝活動にみるプロテスタント教会像について(1937年)	5．発行年 2018年
3．雑誌名 青山国際政経論集	6．最初と最後の頁 147-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nobuko Maeda	4．巻 36
2．論文標題 Histoire de l'enseignement de l'histoire au Japon. Autour de la question des manuels scolaires	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Histoire@Politique（オンライン・ジャーナル）	6．最初と最後の頁 00-00(頁記載なし)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 勝田俊輔	4．巻 978
2．論文標題 救済と改良――大飢饉期のアイルランド	5．発行年 2018年
3．雑誌名 歴史学研究	6．最初と最後の頁 24-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計16件（うち招待講演　4件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 前田更子
2．発表標題 歴史の中のライシテと学校―第三共和政期の教科書問題を中心に
3．学会等名 フランス教育学会（招待講演）
4．発表年 2021年

１．発表者名 渡邊千秋
２．発表標題 Impronta del catolicismo espanol en las misiones de Japon: Diego Pacheco Lopez de Morla SJ (1922-2008)
３．学会等名 I Congreso Internacional: Derechas, Historia y Memoria. Teoria y Praxis de las Dictaduras en el Poder（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 中野智世
２．発表標題 慈善と科学の間で――近代ドイツにおける障害者保護
３．学会等名 歴史学研究会大会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 寺戸淳子
２．発表標題 ラルシュ共同体における身体経験の日常性と非日常性
３．学会等名 日本宗教学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 勝田俊輔
２．発表標題 スコットランド史とアイルランド史：共通の視座の構築に向けて
３．学会等名 日本カレドニア学会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 中野智世
２．発表標題 犠牲者からみたナチ・ドイツ「安楽死」作戦――病者・障害者の経験史のこころみ
３．学会等名 日本西洋史学会大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 寺戸淳子
２．発表標題 ジャン・ヴァニエの実践－「自律／他律」を問い直す－
３．学会等名 日本宗教学会第78回学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中野智世
２．発表標題 子どもをめぐる争い――ドイツにおける児童福祉法とその実践
３．学会等名 政治経済学・経済史学会・秋季学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 芦部彰
２．発表標題 1950年代東西ドイツにおける住宅団地構想－東ベルリン、フェンプール・コンペに注目して（パネル：冷戦期の住宅建設・都市開発－西ドイツとチェコ スロヴァキア）
３．学会等名 社会経済史学会第88回全国大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 村上信一郎
２．発表標題 EU統合、Brexit、イタリア民主主義の行方ー政治の実験室としてのイタリア
３．学会等名 日本政治学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Chiaki WATANABE
２．発表標題 La Acción Católica de la Mujer en la diócesis de Santander, 1912-1936
３．学会等名 XIX Coloquio Internacional de la Asociación Española de Investigación de Historia de las Mujeres（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 前田更子
２．発表標題 ダビデと呼ばれた女性たちー両大戦間期フランスのカトリック教師とライシテ
３．学会等名 史学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 加藤久子
２．発表標題 ポーランドにおける右派勢力とカトリック教会
３．学会等名 日本比較政治学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 深沢克己
２．発表標題 近世フランス宗教史上の転換点--ギュイヨン夫人と「神秘主義の黄昏」
３．学会等名 欧米文化史学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 芦部彰
２．発表標題 戦後西ドイツにおけるエルンスト・マイの住宅建設（シンポジウム「建築から歴史を語る」）
３．学会等名 ドイツ現代史学会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 加藤久子
２．発表標題 ポーランド『三月事件』を結ぶ点と線―ワルシャワ・バチカン・エルサレム―
３．学会等名 国際シンポジウム「1968年再考―グローバル関係学からのアプローチ―」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計14件

１．著者名 中野智世、木畑和子、梅原秀元、紀愛子	４．発行年 2021年
２．出版社 新評論	５．総ページ数 330
３．書名 価値を否定された人々――ナチス・ドイツの強制断種と「安楽死」	

1．著者名 勝田俊輔、岩井淳、竹澤祐丈、安武真隆、大津留厚、望月秀人、衣笠太朗、齋藤英里、中島渉、鎌田厚志、貫龍太、木村俊道、武井敬亮、森直人、桑島秀樹、佐藤一進	4．発行年 2021年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 349
3．書名 ヨーロッパ複合国家論の可能性――歴史学と思想史の対話	

1．著者名 加藤久子ほか多数	4．発行年 2021年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 768
3．書名 中欧・東欧文化事典	

1．著者名 加藤久子、伊達聖伸、小川公代、木村護郎クリストフ、内村俊太、江川純一、オリオン・クラウタウ、立田由紀恵、井上まどか、西脇靖洋、見原礼子、岡本亮輔、諸岡了介、増田一夫、白尾安紗美	4．発行年 2020年
2．出版社 勁草書房	5．総ページ数 332
3．書名 ヨーロッパの世俗と宗教――近世から現代まで	

1．著者名 寺戸淳子、津曲真一、細田あや子ほか11名	4．発行年 2020年
2．出版社 リトン	5．総ページ数 430
3．書名 媒介物の宗教史（下）	

１．著者名 前田更子・中野隆夫・加藤玄ほか38名	４．発行年 2020年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 388
３．書名 フランスの歴史を知るための50章	

１．著者名 加藤久子・渡辺克義ほか25名	４．発行年 2020年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 432
３．書名 ポーランドの歴史を知るための55章	

１．著者名 前田更子、長井伸仁ほか全17名	４．発行年 2019年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 362
３．書名 新しく学ぶフランス史	

１．著者名 加藤久子・櫻井 義秀ほか全9名	４．発行年 2020年
２．出版社 北海道大学出版会	５．総ページ数 350
３．書名 アジアの公共宗教	

１．著者名 勝田俊輔・竹内真人ほか全10名	４．発行年 2019年
２．出版社 日本経済評論社	５．総ページ数 330
３．書名 ブリティッシュ・ワールド――帝国紐帯の諸相	

１．著者名 長井伸仁、谷川稔ほか多数	４．発行年 2019年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 376
３．書名 越境する歴史家たちへ	

１．著者名 中野智世、森明子ほか全15名	４．発行年 2019年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 320
３．書名 ケアが生まれる場――他者とともに生きる社会のために	

１．著者名 寺戸淳子、池澤優ほか全13名	４．発行年 2018年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 262
３．書名 政治化する宗教、宗教化する政治	

１．著者名 勝田俊輔・上野格・森ありさ	４．発行年 2018年
２．出版社 山川出版社	５．総ページ数 504
３．書名 世界歴史大系　アイルランド史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	渡邊　千秋 (watanabe chiaki) (00292459)	青山学院大学・国際政治経済学部・教授 (32601)	
研究分担者	勝田　俊輔 (katsuta shunsuke) (00313180)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授 (12601)	
研究分担者	芦部　彰 (ashibe akira) (00772667)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・講師 (12601)	
研究分担者	村上　信一郎 (murakami shinichiro) (10305675)	神戸市外国語大学・外国学研究所・名誉教授 (24501)	
研究分担者	長井　伸仁 (nagai nobuhito) (10322190)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・准教授 (12601)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	加藤　久子 (kato hisako) (10646285)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・研究員 (12603)	
研究分担者	渡邊　昭子 (watanabe akiko) (20293144)	大阪教育大学・教育学部・教授 (14403)	
研究分担者	前田　更子 (maeda nobuko) (30453963)	明治大学・政治経済学部・専任准教授 (32682)	
研究分担者	中野　修治（尾崎） (nakano shuji) (70765213)	静岡県立大学・国際関係学研究科・センター客員研究員 (23803)	
研究分担者	寺戸　淳子 (terado junko) (80311249)	国際ファッション専門職大学・国際ファッション学部・准教授 (32828)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関